

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立鯉江幼稚園

令和8年3月

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度は、大阪市立鯉江幼稚園が創立100周年を迎える節目の年であり、幼稚園、保護者、地域の方々等とのふれ合いを大切に、取り組んできた。今年度も、様々な人とのふれ合いを大切にしながら、幼稚園の教育を発信していき保護者の理解や教育への意識も高めていきたい。

「安心・安全な教育の推進」では、計画的に避難訓練や安全指導を、子どもの実態に合わせて行うだけではなく、指導した内容を繰り返し伝えたり、保護者に啓発したりして、連携して取り組んでいきたい。また、今年度も小規模園の特徴を活かし、異年齢交流を計画的に行ったり、地域の方とのふれ合いをしたりすることを子どもと教職員だけではなく、保護者にも伝え、周りの人に対する思いやりの心を幼稚園全体で育てていきたい。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、園内環境の工夫や教材研究、園内研究会等を計画的に実施し教職員の資質向上につなげたい。また、子どもを担任だけではなく、全教職員で見守り、多面的にとらえることで、子どもの育ちを広げていきたい。保健面では、例年通り、基本的な生活習慣が身につくように、計画をたてて指導を実施したり、実態に応じた指導を、すぐにしたりする等、教職員で連携して取り組みたい。保護者アンケートでは、保護者の思いや家庭での子どもの様子を共通理解することができるので、引き続き続けると共に、子どもの健康について家庭で考えることができるように啓発の仕方の工夫を考えたい。

「学びを支える教育環境の充実」では、昨今、幼稚園の様子をホームページで知る地域の方や保護者、卒園児も多く、大切な情報発信の場として、教職員で取り組んでいきたい。また、口頭だけではなく、写真や簡単な文章を使用したドキュメンテーションも活用し、保護者に子どもの様子や育ちを知らせ、子どもの素晴らしさを共感したり、一緒に成長を喜び合ったりしたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが、ルールやきまりの大切さに気づき、守れるように保育を行っていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して、思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、基本的な生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

年度目標

【安全安心な教育の推進】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが、ルールやきまりの大切さに気づき、守れるように保育を行っていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して、思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、基本的な生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

3. 本年度の自己評価の総括

保護者アンケートでは、すべての項目において、肯定的回答の割合が目標を上回り、高評価を維持することができた。今年度は、4年計画の最終年度であり、今まで3年間の取組の成果を維持しつつ、子どもの実態に合わせて取組の工夫を行ったことが要因であると考えます。

また、今年度は、異年齢交流を1学期から多く取り入れたことで、5歳児も4歳児も互いに刺激となり育ち合ったことを実感している。複数の教職員で子どもを多面的に捉えることで一人一人のよさを再確認し幼児理解が深まった。教員にとっても異年齢交流は、互いの保育を見合うことで学び合う機会となり資質向上につながった。幼児期は、身についたことに対しても、繰り返しの丁寧な指導が必要である。成果を維持できるように、今後も子どもの実態に合わせて取り組んでいく。今年度の成果や課題を踏まえ、次年度も教育活動の充実に取り組んでいく。

大阪市立鯉江幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目的別シート）

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが、ルールやきまりの大切さに気付き、守れるように保育を行っていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して、思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 安全に対する話し合いや指導、避難訓練を行い、ルールや大切さに気付き、自分の身を自分で守ろうとする気持ちを育む。 指標・子どもたちと安全点検をしたり、安全に対する話し合いを行うなど、子ども自身が考えて行動できる指導の機会を月1回以上設ける。 ・避難訓練や交通安全指導を月1回以上行う。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】 身の回りのいろいろな人に関心をもたせ、友達との関わりの中で、思いやりの心を育む。 指標・月に1回以上、子どもの実態や季節に応じた内容を工夫しながら、異年齢の友達と交流できるようにする。 ・地域との交流内容を見直し、実施する。</p>	A

年度評価の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが、ルールやきまりの大切さに気付き、守れるように保育を行っていますか」の項目について肯定的な回答が100%であった。
 ○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答が97%であった。
 以上により、達成状況はAとした。

取組内容①

◆子ども自身が安全について考えられるように安全指導を行った。

4月	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中での用具の持ち方、使い方 園外保育の安全な歩き方（5歳児） 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子の運び方やはさみを扱うときの諸注意（持ち方、活動時の置く場所）などを都度声掛け知らせることで、意識しようとする姿が見られた。 歩道を歩く時の約束（前の人と間を開けない、周りや信号をよく見る等）と、公共のマナーを確認した。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 遊具、用具の安全な使い方 園外保育の安全な歩き方（4歳児） 	<ul style="list-style-type: none"> ソフト積み木や滑り台、三輪車、ビールケースでの遊び方や、土山での安全な遊び方を、教師の実演を見せながら子どもたちと確認することで、遊具の正しい使い方を意識して守る姿が見られた。 はさみやテープカッター台などの用具の扱い方を都度声掛け知らせた。 歩道を歩く時の約束（前の人と間を開けない、周りや信号をよく見る等）と、公共のマナーを事前に知らせ、事前に5歳児と手をつなぎ歩く練習を行った。園外散歩時には手をつなぐ友達に約束事を声掛けあう姿が見られた。
6月	<ul style="list-style-type: none"> 雨具の扱い方、始末の仕方 園外保育の安全な歩き方（5歳児） 	<ul style="list-style-type: none"> 傘の開閉時の注意や傘の巻き方などを、雨の日の登降園時等機会をとらえて指導を行った。また、濡れた服や鞆などの始末の仕方も知らせた。 図書館訪問の際、道の端を歩くことや左右をよく見て歩行、横断することを意識していた。

	<ul style="list-style-type: none"> 水遊びやプールでの決まりや約束 	<ul style="list-style-type: none"> プール開きで危険行為を知らせたり、プールサイドや入水時の安全行動を教師が実際にやって見せたりした。子どもたちは安全を意識し自ら守ろうとする姿が見られた。
7月	<ul style="list-style-type: none"> プールでの安全な遊び方 衣服の着脱や持ち物を整頓することの大切さ 熱中症予防について 	<ul style="list-style-type: none"> 脱いだ服の整頓について、体の拭き方、プールサイドや脱衣場を走らないことなど、その都度全体や個別に声をかけ知らせた。 熱中症の怖さについて知らせ、室内外を問わずこまめな水分補給を行うことや、戸外では帽子をかぶる、日陰で遊ぶ、涼しい部屋でこまめに休息をとるなど、子どもたちが自分で意識できるようにした。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを取り戻し、安全な過ごし方を再確認 (熱中症予防) 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期開始の8月下旬は残暑が厳しかったため、熱中症対策として、登園後の30分のみ戸外で遊んだ。遊びの途中でもこまめに水分補給をするように教師が声掛けをし、入室後は、汗で濡れた衣服を着替えたり、エアコンの利いた保育室で静かに休息したりするよう指導した。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 戸外での安全な過ごし方 (熱中症予防) 	<ul style="list-style-type: none"> 暑さが厳しかったため、園庭での活動時には10分ごとに水分補給を行うように教師が声掛けをし、全員が飲んでいるかの確認を行った。子ども自身が自分のタイミングで水分補給をできるように、テラスに水筒を置いたり、補充用のお茶や水も十分に準備したりした。 汗をかいたら着替えることが定着した。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒にする安全点検 遊具の安全な使い方 (動画を活用) 集団行動をするときの約束 	<ul style="list-style-type: none"> 園庭で遊んだ後、遊具を安全な状態に片づけることができているかを子どもと一緒に点検した。点検後に、点検表にシールを貼ることで、視覚的に取組み状況がわかり、継続して意欲的に取り組むことができた。 園庭の遊具を安全に正しく使うことを再確認し、子ども自身が意識できるように、動画を活用して指導した。安全に使えることは素敵なことであるという認識が高まり、自分で意識して使ったり、友達と声を掛け合ったりして正しい使い方をしようとする姿が見られるようになった。 園外保育で、公共の場でのルールを事前に知らせたことで、当日も意識して行動する姿が見られた。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ハサミ、のり、製作材料の扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> 作品展の製作活動を通して、ハサミやのりの扱い方を再確認した。また家庭から持ってきた素材は、丁寧に扱うことを意識して取り組むとともに、整理整頓を心掛ける姿も見られた。
12月	<ul style="list-style-type: none"> コマや凧の扱い方について 	<ul style="list-style-type: none"> コマや凧の遊び方や楽しさを知らせるとともに、安全に遊べるように教職員で環境を整えた。遊びながら、安全への意識を持てるように、都度声掛けを行った。徐々に自分達で正しい扱い方を意識できるようになった。
1月	<ul style="list-style-type: none"> 大縄や縄跳びの扱い方について 	<ul style="list-style-type: none"> 大縄や縄跳びは、跳んでいる人に近付きすぎないことや、順番を守る、間隔をあけるなどを知らせながら取り組んだことで、次第に自分たちで、順番に並んだり、周りを見て跳ぼうとしたりするようになった。
2月	<ul style="list-style-type: none"> 劇遊びの道具の扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> 劇で使う大道具や小道具を整理整頓することや、丁寧に扱うことを知らせたことで、子どもたち同士で声を掛け合いながら安全に扱うことができた。

◆年間計画を立て、避難訓練や交通安全指導を行った。

4月	避難訓練 (火災)	<ul style="list-style-type: none"> 非常ベルの音を知らせ進級児の避難する様子を新入園児がテラスで見ること、安心して避難時の行動について知ることができた。
5月	避難訓練 (地震・引渡し訓練)	<ul style="list-style-type: none"> 地震が起こった際の行動を知らせた後、地震の合図で、頭を守る姿勢をとったり、教師の指示で防災頭巾をかぶって避難したりした。 その後、引き渡し訓練のメールを確認して駆けつけた保護者に、子どもを引き渡す訓練を行った。 保護者の中には、メール確認後に、実際の地震を想定して、徒歩で迎えに来られる方もあった。家庭でも災害時の対応について、意識する機会となった。

6月	不審者侵入時の対応 (教職員体制の確認 ・避難)	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者の侵入経路など、いろんな場面を想定し、事前に教職員間で対応の仕方や子どもの誘導體制、避難経路など共通理解した後、不審者侵入の避難訓練を行った。訓練後は、さらに安全対策を強化するための改善も行った。 ・子どもたちは、急な避難指示に対して、教職員と一緒に速やかに行動することができていた。
7月	避難訓練(火災) (預かり保育)	<ul style="list-style-type: none"> ・2階の預かり保育の保育室から預かり保育指導員や教職員の誘導で、速やかに避難できた。ハンカチは口だけではなく鼻もふさいで避難することを再度確認した。
8月	交通安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期始業式に城東警察署と城東区地域安全パトロールの方に来ていただき、保護者と一緒に交通安全の話を聞いた。横断歩道の渡り方などを指導していただいた後、模擬道路を使って2人ずつ横断歩道を渡る練習をした。手を挙げることや右左右の確認をしてから渡るなど、しっかりと行うことができた。 ・保護者へも講話をしていただき、安全への意識が高まった。
9月	避難訓練 (火災、消火訓練)	<ul style="list-style-type: none"> ・城東消防署の方に来ていただき、火災時の避難訓練の様子を見て助言いただいた。職員の、通報訓練や消火器を使っの消火訓練も行った。
10月	避難訓練 (火災・予告なし)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに、避難訓練開始時間を予告なしで行った。今までの避難場所では、園庭に避難することが多かったが、実際の災害では火災発生場所により避難する場所も変わることから、今までと異なる場所への避難を行った。 ・予告をしなかったことで非常ベルが鳴った際に驚く子どももいたが、慌てず速やかに避難することができた。また、教師の指示を聞いて、状況により避難場所や避難経路が変わることも知らせることができた。
11月	避難訓練(地震)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練があることのみ知らせ、時間・内容は知らせず行ったことで、驚いた子供もいたが落ち着いて行動できた。 ・長時間の避難になることを想定して、今回は靴を履き替えて避難した。実際の災害の場合は、寒い時期は長時間の準備に備えて上着を着るなど臨機に動く必要性を教職員で話し合った。 ・津波警報が発令された場合は、小学校へ避難することがあることを知らせた。
12月	避難訓練(火災)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室以外の場所(2階)にいる時に予告なしで行った。 ・通常は階段では、片側通行で並んで降りるが、緊急時のため、全面を使うが、押さずに速やかに降りるよう促した。 ・事後指導で、活動中の避難の場合、手に持っていたものを、その場において避難することも再確認した。
1月	避難訓練 (地震・津波) 2次避難 鯉江小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に津波はどんなものか、幼稚園にいるときに津波警報が発令されたら、鯉江小学校へ避難することを知らせた。 ・園内で地震の避難を行った後、実際に鯉江小学校に避難した。防災頭巾をかぶって、慌てたり騒いだりすることなく落ち着いて避難することができた。
2月	避難訓練 (不審者侵入) 安全啓発(5歳児)	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に行った不審者侵入時の対応訓練での反省を生かし、迅速な誘導と安全対策強化を行った。 ・城東区地域安全パトロールの方に、進学してからの安全な登下校の仕方や、道路の歩き方を教えていただき小学生になってからの安全についての意識が高まった。

取組内容②

◆月に1回以上、子どもの実態や季節に応じた内容を工夫しながら、異年齢の友達と交流を重ねたことで、親しみをもち、関わりを楽しむようになった。

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境の中で安心して過ごせるように、進級児が新入園児の世話をする時間を設けた。身支度や発育測定の際に優しく声をかけたり手伝ったりする姿が見られた。 ・一緒に手遊びや歌を歌ったりして楽しむ時間を多くもったことで、少しずつ親しみをもって関わられるようになった。 ・5歳児は、年下の友達を思いやる気持ちや頼られる喜びを感じる機会となった。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・集会を通して、異年齢の友達と体操をしたりかけっこをしたりする機会をもったことで、好きな遊びの中でも関わるが増えた。 ・保護者と夏野菜を植えたことをきっかけに、栽培物の生長に関心をもち、気付いた

	<p>ことを先生や友達に伝えようとする姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳児と4歳児が手をつないで鯉江北公園に園外散歩に出かけた。5歳児が4歳児を気遣いながら優しく声をかけながら歩いてくれたことで4歳児も安心して歩くことができ、関わりの中で相手を思いやる姿が見られた。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びを通して子どもたちの関わりが深まるように、午後の時間は異年齢で一緒に遊ぶ時間にして毎日交流をしたことで、クラスに関係なく、言葉を掛け合ったり助け合ったりして遊ぶようになった。また、4歳児が5歳児に憧れの気持ちをもったり、5歳児が4歳児に優しく関わろうとしたりする姿も増えた。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール遊びを異年齢合同で行ったことで、互いに刺激を受け「自分も頑張ろう」とする気持ちが芽生えたり、活動に意欲的に参加したりする子どもが多かった。 ・ PTA主催の縁日ごっこでは、なーちゃんクラブ(未就園児3歳児)の友達も一緒にお祭りの遊びを楽しんだ。保護者の方が子どもたちのことを思って準備してくださったことに感謝し、お礼の気持ちを言葉で伝えた。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ まーくんクラブ(未就園児園庭開放)の友達の関わりにも慣れてきて、年下の友達を気にかけて、使っているおもちゃを貸したり優しい言葉をかけたり、思いやりの心をもち関わる姿が見られるようになった。 ・ 4歳児が、なーちゃんクラブ(未就園児3歳児)の友達と大きな紙にローラーで色を付ける遊びに取り組んだ。年下の友達と関わることを意識した4歳児が、ローラーの使い方を知らせたり、順番を譲ったり、相手を思いやって遊ぶ姿が見られた。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園外保育では、異年齢混合グループで活動した。5歳児は4歳児の手をしっかりと握り、安全に気を付けて歩く姿があった。現地での活動でも異年齢が関わりあう姿が多く見られた。交流を重ねてきたことで、互いに信頼し、相手を思いやる気持ちや自分の役割を意識して行動する姿も育まれてきた。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳児が大阪市立幼稚園音楽会に参加し、4歳児は歌声を聞かせてもらう機会ももった。堂々と歌う姿やきれいな歌声に触れたことは憧れの気持ちにつながった。また、5歳児にとっても自分たちの歌声を聞いてもらう経験が自信となった。 ・ 作品展では4歳児が5歳児の作品を見て「こんなのつくれるなんてすごい」と驚く姿や、5歳児が「うめ組さんの作品どれもかわいかった」と声を掛ける姿があった。互いの作品を見合うことで、自分とは違う表現に気付き、相手を認める気持ちや自分の作品を大切に思う気持ちが育つ機会となった。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ お楽しみ会に向けて、異年齢でサンタクロースへの質問を考える中で、行事への関心が高まり、思いを共有することで、行事を楽しみにする気持ちがより一層膨らんでいった。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 劇や合奏を互いに見合う中で、見てもらう喜びや意識が高まった。5歳児は友達と一緒に取り組む経験を重ねることで達成感を味わい、仲間と力を合わせる大切さを実感することができた。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誕生会でコマ回しカバーを5歳児がつくったことで、一緒にコマ遊びを楽しむ機会が増えた。5歳児が回し方を教えたり、一緒に対戦したりする中で教える喜びや責任感が育まれた。 ・ なーちゃんクラブ(未就園児3歳児)とのミニ発表会では小さい友達にも見てもらうことで年上としての自覚が生まれ、自己有用感にもつながった。
誕生会	<p>誕生会では、互いの誕生日に関心をもち全園児で祝う機会にしている。誕生児へ思いを込めて手づくりのプレゼントをつくって渡したり、心を込めてお祝いの言葉や歌のプレゼントをしたりして、相手を思いやる気持ちが育まれている。</p>

◆身の回りのいろいろな人との交流の機会をもった。

・**職場体験の中学生との交流(5月・11月)**

蒲生中学校、横堤中学校の中学生と2日間交流した。初めは互いに緊張していたが少しずつ親しみを持ち、中学生がやさしく声をかけてくれるとうれしそうに関わる姿が見られた。慣れてくると、中学生に甘える姿も見られた。

・**城東図書館訪問、図書館の人との交流(5月)**

5歳児が図書館を訪問し、一人ずつカウンターで絵本を借りる経験をさせてもらった。また、探している絵本が見つからない時には、図書館の人に「どこにありますか」と尋ねる姿もあった。地域の公共施設を身近に感じる機会となった。

・**城東絵本の会の方との交流(6月・9月)**

城東絵本の会の方に来ていただき、『お話の会』を実施した。絵本の読み聞かせや、手遊び、エプロンシアターなどを楽しんだ。いろいろな人から読み聞かせをしていただき、絵本の楽しさを存分に感じるとともに、子どもたちのことを思ってくださいる方がたくさんいることを知る機会にもなった。

・**城東消防署訪問、消防士との交流(7月)**

5歳児が消防署へ七夕の笹飾りを届けた。消防士さんが、はしご車を操縦して見せてくださり、消防士さんの仕事に関心をもつ機会にもなった。また、消防士さんに質問もさせていただき、日頃から子どもたちを含め、みんなのことを守ってくださっていることを知り、人の優しさにふれ

る機会となった。

・**城東区役所4歳児訪問事業、保健師との交流(8月)**

4歳児を対象として、保健師が幼稚園に来て生活習慣の指導があった。視覚的教材を活用して話をしてくださったので、子どもたちも興味をもって話を聞いていた。また、日頃から幼稚園が行政とも連携して、子どもたちを育てていることを保護者に知らせる機会にもなった。

・**教育実習生との交流(9月・10月)**

今年度は、多くの教育実習生を受け入れたことで、子どもたちが学生と交流する機会が多くある。1学期よりいろいろな人との交流を重ねてきたこともあり、子どもたちは学生に親しみを持ち、自分から話しかけたり甘えたりする姿が見られた。温かい関わりの中で信頼や親しみの気持ちが育くまれた。

・**OB会やPTA実行委員会の方との交流(12月・1月)**

もちつきやお楽しみ会ではOB会やPTA実行委員会の方が参加し行事を共に盛り上げていただいた。行事の後には感謝の気持ちを言葉で伝える機会を設け、人との関わりの中で支えられていることに気づく経験となった。

・**鯉江小学校との交流(2月)**

5歳児が鯉江小学校を訪問し、1年生の授業を見学したり昔遊びを教えてもらったりしたことが、入学への楽しみな気持ちへとつながった。

・**インターンシップの学生との交流(通年)**

今年度は2名の学生が、それぞれ週1回インターンシップとして子どもに関わっている。回数を重ねるごとに、子どもたちも親しみを持ち、関わることを楽しみにするようになってきている。

次年度への改善点

- ・少人数の良さを生かし、遊びの中で子ども同士が自然に関わり合える環境づくりをさらに工夫していきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り開く学力・体力の向上】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、基本的な生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】 子どもの興味や関心、発達を捉え、遊びを通して様々な経験ができるような教育内容を工夫する。</p> <p>指標 ・就学前教育カリキュラム改訂版を活用し、環境構成や教師の教育的意図をもった働きかけについて協議する。(月2回以上) ・研究保育や教材研究を年10回以上行い、教師の資質向上を図る。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】 基本的な生活習慣が身につくように家庭との連携をはかる。</p> <p>指標 ・子どもの実態や時期に合わせた保健指導を月に2回実施する。 ・保健指導の内容が家庭で生かされているか、年間2回、保護者アンケートを行い、実態把握をする。 ・学期に1回、指導内容や指導後の子どもの様子を保護者に啓発する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について肯定的な回答が100%であった。
 ○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、基本的な生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答が100%であった。
 以上により、達成状況はAとした。

取組内容①

◆子どもの姿から実態把握を行い、就学前教育カリキュラムを活用しながら、環境構成や教育的意図をもった働きかけについて教職員で協議を重ねたことで、教育内容の充実につながった。

<4月>

新年度のスタートに当たり、子どもたちの姿を教職員で丁寧に共通理解し、子どもの状態に合わせて環境を整えるようにした。園庭では、子どもたちが登園する前に、白線でスケーターのコースをつくったり、土山でおままごとができるように机や椅子を並べておいたりして、すぐに遊び出せる環境を準備した。また、昨年度から継続してカブトムシの幼虫の世話や捕まえたダンゴムシの観察を継続してできるように飼育ケースを目に留まりやすい場所に準備したり、触るのが苦手な子どもも虫の世話ができるように、霧吹きを置いたりした。

<5月>

新入園児も午後保育に慣れてきたので、午後からも落ち着いて遊べるように、子どもたちが興味をもった、つくって遊ぶことができるコーナーを準備した。いろいろな色や大きさの紙を子どもたちが使いやすい大きさに切っておいたり、牛乳パックや空き箱などの素材を種類別に置いておいたりしたことで、使いたいものを自分で選んで存分に遊ぶ姿が見られた。

<6月・7月>

園庭の花をすりつぶして色水遊びを繰り返し楽しんだ。花の種類や色により、色の出方が違うことに気付いて知らせ合ったり、混色することで色が変化することに気付いたりする姿があった。試行錯誤しながら繰り返し楽しむ姿が多く見られた。

<9月・10月>

・運動会に向けて、発達段階や興味のあるものを取り入れた運動遊びに取り組んだ。4歳児は教師や友達と一緒に体を使って遊ぶ経験を増やしたことで、クラスの友達と一緒に取り組む楽しさを感じるようになった。5歳児は自分なりの目標をもって少し難しいことにも毎日継続して取り組んだことが自信となった。また、友達と協力したり競い合ったりすることを楽しむようになった。

< 11月・12月 >

- ・作品展では、遊びの中で生まれた子どもたちの興味や気付きを大切にしながら活動を進めていった。5歳児は友達と話し合いながら協同作品をつくり、互いの考えを受け止め合いながら一つの作品をつくっていった。4歳児は振り返りの中で友達の作品の良さに気づき「すごいね」「かっこいいね」と認め合う姿が見られた。

< 1月・2月 >

- ・生活発表会に向けた劇遊びでは、セリフや表現を子どもたち主体で考えていった。大道具や小道具づくりではその都度話し合う時間をつくりイメージに合った材料を準備してきたことで、色々なアイデアを出し合いながら進めていくことができた。5歳児は大道具の出し入れも自分たちで行ったことで役割を意識しながら友達と協力する姿が見られた。4歳児は自分の出番を意識して、友達に声を掛け合いながら準備する姿が見られた。子どもたちは互いの思いを出し合いながら自分なりに表現する喜びを感じる姿が見られた。

◆研究保育や教材研究を行い、教師の資質向上を図るため取り組んだ。

< 6月 >

- ・外部講師に来ていただき、子どもたちの遊びや遊びの環境、教師の教育的意図をもった働きかけなどを見ていただき指導を受けた。また、保育指導案についても指導を受けた。
- ・大阪市立幼稚園教育研究会の研究保育を行い、他園の先生や大阪市教育委員会の指導主事に保育を見ていただいたりした。また、研究部会では、研究保育当日の様子をたくさんの部員の先生たちに視聴いただいた。研究討議会では、環境構成が工夫されている。また、教職員が子どもたちを温かく受け止めていることが、安心して遊ぶ姿につながっていたと感じたという言葉もいただけた。研究保育を通して、子どもたちの姿を多面的に捉えることの大切さを再確認した。
- ・小麦粉粘土について教材研究を行った。小麦粉粘土の固さや伸び、温度等により子どもたちの遊びが変化することに注目し、練る時に水の量を変えたり、冷やしたものと常温のものを準備したり工夫をした。小麦粉粘土の状態により、アイス屋さんごっこが始まったり、パンやさんごっこに変わったり遊びが展開された。

< 7月 >

- ・寒天遊びの教材研究を行った。短時間で寒天をつくるための工夫や、子どもたちが扱いやすい固さになるように寒天の分量を調節することなど微調整しながら改善を重ねたことで、子どもたちが感触を楽しみながらイメージを広げて遊ぶ姿につながった。また、いろいろな色の食紅粉を準備し、カラフルな寒天をつくったことで色の異なる寒天を混ぜ合わせてジュースやパフェをつくったり、イメージを広げてごっこ遊びを始めたり、遊びが展開された。

< 9月 >

- ・プロジェクターの活用の仕方を工夫した。誕生会でプロジェクターを使って絵本の読み聞かせをした。絵本をそのまま映すだけでなく、映し方も場面に応じて工夫したことで、子どもたちも夢中になって聞く姿があった。保育後は、教職員で振り返りを行い、学び合った。

< 10月 >

- ・運動会では子どもたちの興味に合わせて遊びの内容を工夫した。大阪・関西万博を意識して世界の音楽を取り入れたり、4歳児はミャクミャクになってイメージを広げたりし、色々な体を動かす遊びを楽しみながら取り組めるようにした。5歳児は自分で目標をもって取り組めるよう、可視化するボードを用意したことで、意欲的に取り組む姿につながった。また、パラバルーンや旗揚げなど友達と一緒に協力する遊びを通して、最後までやり遂げる喜びや達成感を味わい自信を深める姿につながった。

< 11月 >

- ・作品展では、子どもたちのイメージに合わせて、様々な材料を用意したり、季節を感じられる素材を取り入れたりと環境を整えていった。子どもたちは想像を膨らませながらつくることを楽しむ姿が見られた。また、接着方法を自分たちで考えられるようにしたり、友達と考えを出し合う機会を設けたりしたことで、自分なりに試したり工夫したりする姿が見られた。

< 12月 >

- ・お楽しみ会では幻想的な演出を工夫した。子どもたちは「本当にサンタがきてくれた」と喜び、わくわくした気持ちで楽しむ姿が見られた。

< 1月 >

- ・生活発表会では子どもたちが扱いやすい道具や身につけるものを工夫した。また、初めに大道具や小道具、衣装などをつくったことで、視覚的なイメージが広がり、より表現遊びを楽しめるようになった。当日は自分たちで大道具を運んだり場面転換をしたりしながら、主体的に取り組む姿が見られ、達成感を味わうことができた。

< 2月 >

- ・日曜ふれあい参観ではお家の方と子どもたちが楽しく触れ合って遊べる環境を工夫した。体を動かかす遊びやふれあい遊び、様々なお家の方とも関われる遊びなど多様な活動を計画したことで、「普段とは違うこどもの姿が見れて、たくさんふれあえて楽しかった」との感想をいただくことができた。

取組内容②

◆子どもの実態や時期に合わせた保健指導を月に2回実施した。

4月	手洗い・うがいについて	水道の使い方
5月	健康診断について	トイレの使い方
6月	プライベートパーツについて	園内の安全な過ごし方
7月	熱中症対策について	こまめな水分補給の声かけ
9月	がんばったけが・ざんねんなけが	汗の処理（着替え）
10月	目の健康について	和式トイレの使い方
11月	排便について	教材を使用する上でのけが予防
12月	咳・くしゃみエチケット	手洗い・うがい（感染症予防）
1月	くじら列車（早寝早起き）	手洗い・うがい（感染症予防）
2月	3色食品群について	くじら列車（早寝早起き）
3月	姿勢について（予定）	心の健康（予定）

5月 トイレの使い方

・洋式、和式、男子用小便器など様々な形の便器があり、用途によって使い分けることを知らせた。以前、洋式トイレを使おうとした男児に対して「ここは女の子のトイレだから使ったらだめ。」と言われたことを保護者から聞いたことがあり、洋式、和式トイレは誰もが使ってよい「みんなのトイレ」であるということも共通確認した。また、共有のトイレはそれぞれが清潔に保とうと意識することで気持ちよく使えることを知らせると、自分が使ったスリッパだけでなく他の子が使ったスリッパもきれいなにならべてあげようとする姿が見られるようになった。

6月 プライベートパーツについて

・プール開きの前に指導を行った。プライベートパーツは「見ない、触らない、見せない、触らせない」ということを知らせ、もし、自分にとって不快に感じることをされたら迷わず「いやだ」と言って良いことも知らせた。また、気温が高くなり、汗をたくさんかいたり、水遊びの機会も増えてきたりしたことで着替えの回数も増えてきたこともあり、まずは大切なプライベートパーツを守るために下着から着替えることを呼びかけた。指導前は裸のまま遊んでしまったり、下着の前に靴下を履こうとしたりする姿が見られたが、指導を行ったことによって少しずつ意識している姿が見られるようになった。

・1学期末の保護者会で、子どもたちに行ったプライベートパーツの指導内容に沿って幼児期から自分の体は自分だけのものであり、大切にしなければならないということを、まずは大人が理解したうえで、伝えていく必要があることを話した。

9月 がんばったけが・ざんねんなけが

・運動会を控えていることから、けがの予防についての指導を行った。けがには、一生懸命に取り組む中で起きる『がんばったけが』と、不注意やトラブルで起きる『ざんねんなけが』の2種類があることを伝えた。ざんねんなけがを少なくするにはどうしたらよいのか、園舎内の写真を掲示しながら子どもたちと一緒に考えた。「廊下は走ったらあかんで」「階段は上り下りのマークを見ながら使おう」などと幼稚園でのルールを再確認し、園内だけでなく、園外でもルールを守ることを意識することでざんねんなけがを減らしていこうと知らせた。指導後は、子ども同士で「廊下は歩くんやで」など声をかけあっている姿が見られた。1学期は廊下や保育室内を走ってスライディングする危険な行為が見られたが、少しずつ改善されていると感じている。

10月 和式トイレの使い方

・園外保育場所によっては和式トイレしか無いことから、和式トイレの使い方の指導をした。和式トイレを知っている子どもは多くいたが、実際に使用したことがある子どもは少なかった。視覚的教材を使って指導をした後、園内の和式トイレを使う機会を意識的に増やした。最初は不安げな様子ではあったが何度か使ううちに慣れていく姿が見られた。近年では商業施設や駅等も洋式トイレに移行しつつあるが、いざという時に使えるように、今後も使い方の指導をしていく。

11月 排便について

・健康的な便を出すには食物繊維や水分をとることや、体を動かすことも健康な便を出すことにつながっていることを指導した。また、模型を見せながら便の色や形でその時の体調の変化がわかることを指導し、下痢や水様便が出た場合は感染症等の疑いがあるため、必ず保護者や教職員に伝えるように話をした。指導後も保健室前に模型を掲示したことで、子どもたちがより指導内容に興味や関心が高まる機会を設けることができた。

12月 咳・くしゃみエチケット

・感染症が流行していることから、感染症予防として咳・くしゃみエチケットの指導を行った。咳やくしゃみが出たときには見えないウイルスが何百万個も飛んでいることを伝え、飛沫距離をリボンの長さで示すと「えー！こんなに飛んでいるの?!」と驚いている姿が見られた。飛沫予防としてマスクを着用したり、袖の内側でおさえたりすることでお互いの感染症予防につながることを指導した。

1月 くじら列車（早寝早起き）

・夜の9時までに眠ると夢の中でくじら列車と出会い、体と心と脳の成長につながるプレゼントがもらえる「くじら列車に乗ろう」という話を通じて早寝早起きの指導を行った。実際にくじら列

車に乗ることができる切符を全員に配布し、8時45分～8時55分の登園時間の間に来ることができたら通用門でくじらのアーチをくぐるようにした。子どもたちも楽しみながら取り組み、登園時間内に来ることができる子が増えた。

2月 3色食品群について

- 食べ物の栄養素を赤、黄、緑の3色に分けられることから、それぞれをレンジャーに例えて子どもたちに指導した。赤は肉、魚、卵などで筋肉や骨の成長につながることで、黄は米、パン、麺類などで体を動かすエネルギーになること、緑は野菜、果物、きのこ類などで免疫に作用することを説明した。それぞれをバランスよく食べなければならないことを指導すると、「野菜ばかりでもあかんねんな」などと指導内容を理解している姿が見られた。

- ◆ 学期に1回、指導内容や指導後の子どもの様子を保護者に啓発した。
- 生命の安全教育に関して、大阪市立幼稚園教育研究会で合同研究に取り組んでいる。そこで、臨時のほけんだよりを配付し、保護者アンケートを行った。「幼児期から性や命の教育をしていくことは本当に大切だし、絶対必要だなと思います。」「この小さな年齢の時から、自分の体を大切にすることの基礎を作るといってお話を聞いて、本当にその通りだと思いました。自分の体を大切に、大切にされて当たり前になるように、これからも声かけをしていきます。」などの声があった。
- 2学期の保護者会では、感染症予防として子どもたちに指導した「咳・くしゃみエチケット」について話をした。実際に保健指導で使用した咳とくしゃみがどれだけ飛沫距離があるかリボンで示している教材を保護者にも引っ張ってもらった。保護者からも「くしゃみをする時はこうするんやで！と袖の内側で覆うポーズをして教えてくれました。」と声をかけていただいた。

- ◆ 10月に保護者に保健活動に関するアンケートを行った。(項目と回答の一部を抜粋)

◎家庭で保健指導の内容について話している姿や取り組んでいる姿はありますか

回答・家に帰ったら1番初めに手洗いうがいをする。

- 歯磨きは仕上げ磨きを毎日自分から声をかけてくれます。
- 園庭開放をととても楽しんでいるので、残念な怪我や遊具マスターへの道のお話はマメに話しています。
- イスに座る時に、「ピンピタポン」と言いながら姿勢よく座ろうとしています。

◎今後、ほけんだよりや保健指導で掲載してほしい・実施してほしい内容がありますか

回答・小学校で給食が始まる中ですごく偏食が多くて困っています。偏食をせずに食べる必要性について指導して欲しいです。

- 子どもたちが、お友達に優しく触れたり、助けたりして、自分や相手を大切にする保健の時間があると嬉しいです。
- 鼻のかみ方や、うんちをしたあとの拭き方を教えるのが難しいなと思っています…幼稚園でも子どもに分かりやすく話してもらえたら嬉しいです。

アンケート結果より、幼稚園で指導した内容が家庭でも実践されていることが分かった。しかし、手洗いや歯磨きなど一度指導したことで再度指導してほしいとの声もあったことから、継続した指導が必要であると考えられる。また、指導してほしい内容について、排泄・食事・清潔などの基本的な生活習慣に関する指導を求められている他に、気持ちなどの心に関する指導もしてほしいという声があったことから、身体面と心理面での多岐にわたる指導が求められていると感じた。

2月下旬にも保健活動に関するアンケートを実施する予定である。

次年度への改善点

- 次年度も毎月の保健指導を行っていき、指導した内容をより保護者に分かりやすく啓発できるよう努めていく。
- 子どもの実態に応じた環境構成や教師の働きかけについて今後も継続的に見直しを行い、研究保育での学びを生かしながら保育の充実を図っていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 幼稚園の教育内容を理解してもらえるように取組を工夫し、家庭・地域と連携を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に子どもの育ちや教育内容を、掲示物を活用しながら月2回以上発信する。 ・地域に園の活動の様子や教育内容、未就園児活動についてホームページなどで年間40回以上発信する。 ・行事後にアンケートを実施し、分析する。(年3回) 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

保護者アンケート調査で、「幼稚園は子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目について肯定的な回答が100%であった。
 以上により、達成状況はAとした。

取組内容 ①

- ◆保護者に子どもの育ちや教育内容を、掲示物を活用しながら発信した。
 - ・毎日の降園時に、その日の活動や学びについて保護者に伝えた。保護者が園での様子を知ること、子どもと幼稚園の話題で会話が広がっていると感じる。
 - ・毎月の保育室降園では、クラスでの子どもたちの育ちや取り組んだことについて、ドキュメンテーションを用いて保護者に伝えた。写真にコメントを添えることで、子どもの育ちが具体的に示すことができ、保護者も教育内容に関心をもつ姿が多く見られる。また、外国にルーツのある保護者にもドキュメンテーションは伝わりやすかった。
 - ・1学期末の保護者会では、6月に行った大阪市立幼稚園教育研究会の研究保育での子どもの姿や、他園の先生方と一緒に子どもの育ちを分析した話を掲示物やパワーポイントを使って伝えた。また、実際に子どもがつくったものと一緒に掲示した。
 - ・大阪市PTAだよりに、鯉江幼稚園の子どもたちが生き生きと活動した記事が掲載され、幼稚園の教育活動を大阪市内全校種に発信する機会となった。
 - ・作品展では子どもたちが工夫して作品づくりをしたり、クラスのみんなの前でつくった作品について紹介したりしている姿を、生活発表会では表現遊びから劇遊びに変化していく過程をドキュメンテーションで発信した。
 - ・生活発表会前には保護者に劇遊びで行う絵本の読み聞かせを行った。「絵本の内容を共有してもらったので、子どもたちの表情や動きをより集中して見ることができた。」との声があった。
 - ・ホームページなどで地域に園の活動の様子や教育内容、未就園児活動について発信した。更新は、前期に40回を超えた。子どもたちの姿とともに、どのようなことに重点をおいて教育活動を行っているのかを発信するように努めた。ホームページを見ての途中入園もあった。
 - ・後期も定期的にホームページの更新を行っている。月に1回行っている未就園児活動ではホームページを見て来園したという家庭もあった
- ◆行事後にアンケートを実施し、分析した。
 - ・運動会アンケートでは、子どもたちが楽しく行事に取り組んだ姿から、集団の中での子どもの育ちを実感してもらえたことがよくわかった。
 - ・作品展アンケートでは、5歳児は昨年と比べて工夫した点を自分で説明したり、実際の物と同じように表現しようとしたりする姿が感じられたという声が多かった。4歳児は自分で好きな色や素材を選んでのびのびと個性を發揮して表現している姿に成長を感じたという声が多かった。
 - ・生活発表会アンケートでは、緊張しながらも表現している姿や、自分だけでなく周りの子どもたちと声をかけ合って取り組む姿に育ちを実感してもらえたことがよくわかった。また、4歳児ではみんなで声をそろえてセリフを言う姿に対して、5歳児は自分で考えたセリフを1人で言う姿に学年ごとの成長の違いがわかったとの声があった。

次年度への改善点

- ・次年度も引き続き保護者に子どもの育ちや教育内容を分かりやすく伝えていく。
- ・行事や園の活動の様子を定期的にホームページで発信していく。

